

人口減少に立ち向かう集落の取組について

～集落支援で新たなチャレンジが生まれています～

人口減少が急速に進む日野郡の集落では、そのまま何もしなければ空き家が増えたり、さらには集落で暮らし続けることが困難になる可能性があります。日野振興センターでは、集落に出向きみなさんと座談会などで対話をさせていただきながら、住民自らが地域を守り、後継者を育て、持続可能な地域を作り上げる活動組織24団体のお手伝いをさせていただいています。日野郡今回はその活動事例を各団体の声を中心に紹介します。

5533クラブ(日南町宝谷集落) 女性会5人組

★宝谷みんなの食堂(地域で採れた食材を使った栄養たっぷり料理)

Data: 人口54人
世帯数: 29世帯
高齢化率: 64%



取組のきっかけ
取組
みんなの声

宝谷集落は、独居、高齢者夫婦世帯が中心で食事も孤立となっている事から、高齢者の健康を心配した女性会(5533クラブ)が「何とかしたい」との思いで、こども食堂に習って、「みんなの食堂」で集いの場、健康づくりを行うこととしました。みんなの食堂で実績とノウハウを蓄積し、古民家を活用した農家レストランを目指しています。

・高齢者に伝統料理や地域の食材を使ったなじみのある栄養バランスのとれた食事を、毎月1回「みんなの食堂」として提供する取組を行っています。
・ピザ窯をみんなで作り、参加者が自分のオリジナルピザづくりをして焼きたてピザを楽しみます。
・こんにやくづくり体験をして、ワイワイと口と手を使って老化防止といきがづくりに取り組んでいます。

・顔が見える食材を使った、彩りと健康に気遣った料理がおいしかった。料理を作っていた、5人の女性には頭が下がる思いです。初めて、ピザづくりを体験して楽しかったのと、焼きたてが食べられうれしかった。12月のこんにやくづくりの体験を楽しみにしています。

別所女子部プロジェクトチーム(日野町別所集落)

★別所にある写真を集めて昔懐かし思い出の写真展を開催

Data: 人口43人
世帯数: 21世帯
高齢化率: 60%



取組のきっかけ
取組
みんなの声

別所集落は、あと継ぎがないお宅は空き家となり、人口も最盛期の3分の1に減ってしまいました。このままでは、集落の歴史、思い出、暮らしが失われ消えてしまうことになる。そのため集落にいる人も出てしまった人も、20年前に写真家が撮った写真で思い出の写真展を開き、一堂に集まり地域の未来について語るうとの思いで始めました。

・農作業小屋をみんなで改造して、別所集落(カフェと昭和の音楽のある)美術館をつくりあげました。
・10/16,17日別所でみんなと暮らした「写真家みやちゃん」が20年前に撮った別所の人々を写真と映像で楽しむ写真展を開催しました。
・住んでる人出てしまった人など住民が一堂に集まり、昔話を花を咲かせ地域の将来について話し合いました。
・伝統料理のジャブ汁やこだわりのカフェ、抹茶などのふるまひもあり居心地のいい集いの場が出来ました。

・農業用倉庫をみんなで手作りして別所美術館になったことがうれしかった。昔の写真を元にして地域がつながり、みんなが集まり、昔話が出来、近況も聞くことが出来よかった。おもてなしも、ジャブ汁、抹茶、こだわりのコーヒーをいただき心もお腹もいっぱいになった。ずっと、残してほしい。
(今後の予定)みなさんの要望から、3月末までに、もう一度開催を予定しています。

※別所集落出身者で現在松江にお住まいの方が、この取組を知り故郷のお役に立ちたいと、自分の趣味のこだわりのコーヒーを持参され、来訪者にふるまっていたいただきました。

江府町宮市原集落(江府町宮市原)

★美しい宮市原づくり・ムラづくりカフェ

Data: 人口28人
世帯数: 12世帯
高齢化率: 68%



取組のきっかけ
取組
みんなの声

宮市原集落は、高齢化率約7割とこのまま何もしなかつたら集落消滅の危機を感じ、そのとき県が進めていた集落再生システム構築事業の支援を受ける事としました。これにより、集落の強みは、立地、そしてみんなが守り続けてきた美しい景観と気づき「美しい宮市原」をキャッチフレーズにして取組むこととしました。

・みんなで「美しい宮市原」の景観づくりに取組み、誇りを持って帰って来なくなる宮市原、住みたくなくなる宮市原を目指して頑張っています。
・今年3月からムラづくりカフェを開催して、みんなが集って百歳体操やおしゃべりカフェを開催しながら、集落が一つになって支えあいのムラづくりを進めています。

・ムラづくりカフェが出来てから定期的に集って、体操して、カフェでお喋りするのが楽しい。もともと花作りが好きで、みんなと一緒に助け合いながらの花作りが楽しい。集落に一体感が生まれ、小さな生きがいになっています。

日野振興センターでは、集落支援、集落再生など他にも様々な地域づくり支援を行っています。ぜひ、ご相談ください。

日野振興局 地域振興課 電話:0859-72-2080 FAX:0859-72-2072

特殊伐採技術の「吊伐(つりぎり)」を紹介します!

山林で樹木を伐採するときは、チェーンソーで地面に近い位置を切り、斜面にそのまま**パタン**と倒します。ところが、住宅地など樹木を倒すスペースがないところで伐採するときは、周辺の障害物を避けるための**特殊な伐採技術**が必要になります。樹木に登り、樹木の上で枝や幹を切断したり、切った幹をロープで安全に吊下していくなど、これら一連の作業が「吊伐」と言われる伐採技術です。

海外ではこの特殊な伐採を行う人をアーボリスト(樹護士)と呼んでおり、樹木に登るときに自分の命を預けるハーネス(ロープを体に固定するベルト)など専用の道具も普及しています。日本でも海外メーカー製の専用道具が手に入りやすくなってきたこともあり、改めて注目されています。

作業の手順

特殊伐採(吊伐)の作業手順を説明します。

①安全に樹木に登る道具を身に着けます。



↑腰に装着したハーネスなど木登りの道具を拡大した写真

②道路沿いの民家に大きなスギが3本あり、中央のスギに人が登っていきます。



日野町舟場

③幹の先端を切離すとき、先端部が落下しないようロープで固定してから切断します。



④切断した先端部は落下せず吊下げた状態になり、地上の仲間が操作してゆっくりと下ろします。



こんな樹木に登ることも!

鳥取日野森林組合 特殊伐採チーム

特殊伐採ができる人は県内でもわずかですが、郡内では鳥取日野森林組合が活躍しています。

チームの要は神庭班長。山岳クライミングや高所作業の技術・知識と安全面での高い意識を持ってチームを率いています。



鳥取日野森林組合の特殊伐採チーム 左から初田副班長、神庭班長、池岡班長、石井さん

特殊伐採は、通常の伐採より危険が伴う上、切離す枝や幹の順番などの手順を誤るとやり直すことができないことから、チームワークや安全意識の向上が図られます。森林組合の建屋内に、天井まで届く樹木を立てた練習場をつくり、特殊伐採作業の前に手順をきちんと確認しています。

森林組合には、年間10件程度の特殊伐採の相談が寄せられており、本業である林業の作業スケジュールを調整しながら、要望に対応されるとのことで、今後もチームの活躍が期待されます。

